

ヨシナカ新聞

12月号

発行所
株式会社ヨシナカ
東京営業所
TEL: 03-3555-0796

曾爾高原

大阪本社のYさんから写真の提供をいただきました。奈良県宇陀郡曾爾(そに)村太良路にある曾爾高原のススキです。ススキのバックで夕陽が映えて晩秋を感じます。ススキは平成17年12月号以来の紹介になります。約40ヘクタールある曾

爾高原がススキで覆われています。9月中旬に穂が出はじめ11月下旬金色に染まります。昼間はまぶしい太陽の光を受け、銀色の波となつてうねり、

夕暮れには金の波となつてゆれる景色は力強く、限りなく優しい表情を見せてくれます。亀山は山全体が草原となつており新緑の季節が美しいそうです(奈良県観光公式サイトより)。

交通は名張駅から三重交通「山粕西行」バス、「太良路」下車、徒歩45分(10月、11月のみ曾爾高原行きバスがあります)また、車の場合は名阪国道針インターチェンジ、榛原を経由して約45分のところにあります。



ばさついったご飯やパスタをもつちりと復活させる方法

ばさついったご飯を復活させる方法がネットで紹介されています。ご飯の中に氷を入れ、クッキングシートで全体を覆い、電子レンジで1分加熱します。電子レンジに入っている間、氷が蒸気を生じさせてご飯に水分が行き渡り、ご飯がしつとりと復活するそうです。

この方法はパスタ料理にも使えるそうで、パスタが残ったら、お皿に広げて、その上に氷を置いて蓋をすればいいです。クッキングシートがないときは、ペーパータオルでも構いません。残ったパスタを電子レンジで1分以上加熱する必要があります。場合、1分に1回程度かき混ぜて氷に目を配ることがポイント。パスタを薄く広げれば均等に加熱することができ、電子レンジで加熱する時間を短縮できます。私も是非試してみたいと思います。

日本人は時間にルーズだった

1872年(明治5年)の10月、東京の新橋と横浜の間に日本初の鉄道が開業されました。ちょうど150年のメモリアルイヤーを今年迎えています。そんな節目を迎えた日本の鉄道といえますと時間ピッタリの定刻運行で知られていますが、そんな鉄道の開業と日本人の時間の感覚には密接な関係がありました。

今や世界に誇る日本の定時運行、実は最初からそうだったわけではなく、明治初期の日本人は信じられないほど時間にルーズで外国人を呆れさせるほどでした。こういったルーズさの原因は時刻の制度にありました。鉄道が開業した明治5年まで日本が使っていたのは「不提示法」で、昼

と夜をそれぞれ6等分したというもので、その6分の1の時間も季節によって変わっていたので当時の日本人はとてゆつたりとアバウトな時間の中で生きていました。現在私たちが使っている1日24時間の定時法を使っていた外国人からは日本人がとてゆるずに見えたのです。

鉄道の開業に合わせて1日24時間の定時法を日本も導入することになり、それに合わせて時刻表も作られたのですが、そもそも当時の日本人には身近に時計もなかったため、正確な時刻を知る方法がありませんでした。そこで明治政府は時間の教育をスパルタで行いました。例えば鉄道の場合、乗りたい人は発車の15分前までに停車場に来なさいと市民に通知し機械的性質が異なるなどの不具合が生じてしまうため、あらかじめこれを均一化することが必要になります。このため鋼塊または鋼片の段階で鋼を1100~1300℃に長時間保持を行います。この熱処理を拡散焼きなましまたはソーキングと呼んでいます。

高温長時間の保持により合金成分

でしたが、それでも遅れる人がいた為、発車の5分前に駅の門を閉めてしまいました。

こうした政府の時間教育は鉄道以外の場所でも行われ、学校では授業開始の10分前に校門を閉め切ることが全国統一のルールとして採用されました。また、当時国が運営していた官営工場では午前7時30分が始業時間でしたが、労働者は6時30分までに到着しないと減給、出社が7時を過ぎたら帰らされました。

このような時間教育で定時運行を手にしていった日本の鉄道ですが、開業から150年が経った今年、スマートフォンの普及でJRの一部の駅では構内の時計を撤去しようという動きが広まっているそうです。

は鋼中に拡散され均一化されます。合金成分の拡散速度は元素によって異なります。Cは比較的早く、Ni、Mn、Moなどは極めて遅くなります。従って保持時間はこれらの成分の含有量によってかなり異なりますが、径25mm当たり約1時間程度が採用されています。

特殊鋼豆知識

④ 拡散焼きなまし

鑄込んだままの鋼塊は合金成分が鋼中に均一に分布してしていません(鋼塊偏析)。このような鋼塊を直接圧延したり鍛造しても偏析は完全に消えず製品まで残ります。偏析が残存していると同一製品内で局部的に